

咳喘息患者のimpulse oscillometry (IOS) 所見と健康関連 QOL: 軽症喘息患者との比較検討

竹田知史 新実彰男 小賀徹 松本久子 伊藤功朗 山口将史 陣内牧子 大塚浩二郎
小熊毅 中治仁志 井上英樹 三嶋理晃
(京都大学 医学部 呼吸器内科)

【背景】咳喘息では喘息と同様に中枢および末梢気道の炎症が存在するが、IOS所見の詳細は不明で、健康関連QOLとその寄与因子も知られていない。

【対象と方法】咳喘息患者と、FEV₁が同等の軽症喘息患者各57例(各々の平均%FEV₁=106.8%, 105.6%)を対象に、IOSの全・中枢・末梢気道抵抗 (R5, R20, R5-R20) と末梢性容量性リアクタンス (X5)、呼気NO値、健康関連QOL (AQLQ, SGRQ)を評価し、両群の比較と、各群の健康関連QOLに対するIOSの中枢および末梢気道指標と呼気NO値の寄与を検討した。

【結果】咳喘息では軽症喘息と比較して健康関連QOLに有意差はなく、R5・R20・呼気NO値が有意に低かった。咳喘息ではR20がAQLQの2領域とSGRQの2構成要素・総スコアと、軽症喘息ではR20がAQLQ全てとSGRQの1構成要素以外とそれぞれ有意に相関し、各々で唯一有意な寄与因子であった。

【考察】咳喘息では、FEV₁が同等の軽症喘息と比べて全および中枢気道抵抗が低く気道炎症も軽度であったが、健康関連QOLの障害の程度や寄与因子(中枢気道抵抗)は同様であった。咳喘息では、咳症状が健康関連QOLに影響を与えている可能性があるかもしれない。